

自・他の対応と日中対照研究 — 他動化と使役化 —

中 島 悦 子

1. はじめに

動詞の自・他対応は意味論・文法論にとって重要なテーマのひとつであり、すでに多くの先行研究がある。

中島(1991a)(1991b)(以下前稿、前々稿と呼ぶ)は、現代日本語の自・他対応と、それに対応する中国語表現を取り上げ、中でも他動化・自動化を中心として、両者の対照研究を試みた。その概略は次の通りである。

日本語では自動詞、他動詞の多くが、接尾辞の付加によって派生されると考えられる異形態で対応する。一方、中国語ではその多くが自・他同形である。例えば、

- | | | | | |
|-----|---|-----------|------------|-----------|
| (1) | a | 太郎が氷をとかした | tok-as-u | 太郎化了氷 |
| | b | 氷がとけた | toke -ru | 冰化了 |
| (2) | a | 太郎が仕事を始めた | hajime -ru | 太郎開始了一項工作 |
| | b | 仕事が始まった | hajim-ar-u | 一項工作開始了 |

のように、日本語では、自動詞の他動化は他動化辞“-as”の付加により、他動詞の自動化は自動化辞“-ar”の付加による派生であるが、中国語では、「とける」「とかす」が共に“化”、「始まる」「始める」が“開始”というように同形動詞が日本語の自・他動詞に対応する。

しかしながら、中国語にも他動化辞に相応する形式がある。結果性複合動詞(“弄脏”“打退”等一般に動詞に結果を表す要素がついたものといわれる)を形成する前項動詞“弄”“打”等がそれである。例えば、

- | | | | |
|-----|---|----------|---------|
| (3) | a | 太郎が服を汚した | 太郎弄脏了衣服 |
|-----|---|----------|---------|

- | | | |
|-------|----------|---------|
| b | 服が汚れた | 太郎脏了 |
| (4) a | 太郎が敵を退けた | 太郎打退了敌人 |
| b | 敵が退いた | 敌人退了 |

のように、“弄”“打”はそれぞれ自動詞“脏”“退”に付加して複合動詞“弄脏”“打退”を形成し、他動詞として働く。しかし日本語の他動化が“-as”のような非自立的な接尾辞を動詞の語幹につけることによってなされるのに対して、中国語は“弄”のような自立的な動詞が自動詞に前置して複合動詞の前項要素となり、他動詞として機能する。“弄”等の動詞を他動化詞と呼ぶことにする。

さて、自動化の統語機能にも、“他好了”（彼はよくなった）等のアスペクト詞“了”が密接に関与するという指摘がある（鶴殿1982）。つまり、“了”の付加によって自動構文が成立するという。しかし、“了”はあくまでも完了の結果の状態を表すアスペクト詞であって、自動化の機能は有していないと分析した。

本稿では、自動詞文の他動化と自動詞文の使役化との関連について、日中両語を比較対照する。資料および例文は岩波の倉石武四郎編『日中辞典』（1983）・『中国語辞典』（1963）を主とし、作例も随時加えた。

2. 他動化と使役化

2.1.

日本語における動詞の自・他対応は、形態的・意味的・構文論的な観点から分析されなければならない。

奥津(1967)は、自・他の対応をシンタクスのレベルから考察し、他動化・自動化・両極化の三転形を立てた。そしていずれも、自動詞の主語と他動詞の目的語は一致し、他動詞の主語が自動詞文では消えるとする。その場合例えば、他動化とは次のように説明される。

(5)自動詞よりの他動化

- | | | | |
|---|----------|------------|----|
| a | 服が乾く | kawak | -u |
| b | 太郎が服を乾かす | kawak-as-u | |

自動詞「かわく」の語幹“kawak”に他動化辞“-as”をつけて、他動詞「かわかす」を派生するものである。

意味的には、自動詞文の「服がかわく」という事柄を、「服がかわくようにする」というのが、他動詞文の「服をかわかす」なのである。

従って、自・他の対応の本質的概念とは、

(6)自動詞文の事柄の成立がまずあって、その自動詞文の表す出来事を他動詞文が引き起こす。

と考えられる。

さて、日本語においては、このような自動詞から他動化辞の付加によって派生される他動詞と、自動詞を補文とする使役文との間には、密接な関係がうかがわれるのである。従って対応する他動詞のない自動詞は、使役形が他動詞に替わるものとして使われる。

例えば、「降る」に対応する他動詞がない場合、使役形「降らせる」がその替わりをする。

- | | | | | | | | |
|-------|------------|---|------------------|----------------|---|---|----|
| (7) a | 雨が降る | a | N ₂ | ガ | V | 自 | |
| b | 科学者が雨を降らせる | b | N ₁ ガ | N ₂ | ヲ | V | 使役 |

自動詞文を補文とする使役文の構造は、まず形態的には、(a)の自動詞「降る」の語幹“hur”に使役の接尾辞“- (s) ase”をつけて、(b)の使役形「降らせる」が派生される。使役の接尾辞“- (s) ase”は他動化辞“-as”とは機能的に類似する。また構文的には、(a)の自動詞の主語と(b)の使役文の目的語の一致、そして(b)の使役文に新しい主語が現れるという点で、自・他の対応と同じである。意味的にも、(b)の使役文は、動作主である「科学者」が「雨

が降る」という補文の表す出来事を生じるようにするということである。いずれにしても自動詞文の他動化と、自動詞文の使役化は一致すると言えそうである。

ところで、中国語では自・他両用動詞であるのに、日本語では自動詞だけで、対応する他動詞のないものがある。例えば、石堅・王健康（1983）によると次のようなものがある。

	中国語（自他両用）	日本語（自動詞）
“普及”	自他	自（普及する）
“発展”	自他	自（発展する）
“撤退”	自他	自（撤退する）
“成立”	自他	自（成立する）
“提高”	自他	自（向上する）
“分裂”	自他	自（分裂する）
“餓死”	自他	自（餓死する）

以上のように、中国語では自・他同形であっても、日本語では対応する他動詞形のない自動詞ならば、使役形がその替わりをするものとなる。

例えば、

- | | | | |
|-----|---|-----------|---------------|
| (8) | a | 人民政府成立了 | 人民政府が成立した |
| | b | 我們成立了人民政府 | 我々が人民政府を成立させた |
| (9) | a | 農業生産提高了 | 農業生産が向上した |
| | b | 我們提高了農業生産 | 我々が農業生産を向上させた |

(8)(9)における(a)の中国語の自動詞“成立”“提高”に対応する日本語は「成立する」「向上する」と同じく自動詞である。しかし(b)の中国語の‘成立’‘提高’は目的語“人民政府”“農業生産”をとる他動詞である。日本語の「成立する」「向上する」は対応する他動詞をもたない自動詞である。

従って中国語の他動詞に対応するためには「成立させる」「向上させる」のように使役形態を取らなければならない。

2. 2.

また日本語では他動化であっても、中国語では自動詞のみで、対応する他動詞のないものがある。その場合は中国語においても同様、使役形が他動詞に替わるものとして使われる。

例えば、

- | | | | |
|------|---|---------|------------|
| (10) | a | 乗客下車 | 乗客が降りる |
| | b | 司机讓乗客下車 | 運転手が乗客を降ろす |

日本語の自動詞「降りる」には中国語も自動詞“下”で対応するが、他動詞「降ろす」に対応する他動詞が中国語にはない。中国語の“下”は対応する他動詞を持たない自動詞専用動詞である。その場合は(b)文のように使役文が他動詞表現を受け持つ。

さて中国語の使役文の構造は次のような形態をとる。

- (11) N_1 (動作主) + V_1 (叫／讓／使) + N_2 (被動作主) + V_2

このような中国語の使役文は埋め込み構造として説明できる。

- (12) a 乗客下車
b 司机讓乗客下車

まず構文的に、主文(b)の主語は“司机” (N_1) であり、使役動詞“讓” (V_1) は被動作主である“乗客” (N_2) を目的語としてとる。そして更に補文(a)“乗客下車”をとる。この補文の主語は主文の主語と同じ“乗客”であり、その動作が“下車” (V_2) である。つまり“乗客”は使役動詞“讓”の目的語であると同時に、“下車”の主語でもある。中国語ではこのような

構造を持つ文をいわゆる「兼語式文」と呼ぶ。意味的には、中国語の使役文も使役動詞“讓／使”の動作主N₁が目的語であるN₂に対して、補文の表す事柄（V₂）を行わせるということである。

中国語の自・他対応も次のように、

- | | | | |
|------|---|--------|-----------|
| (13) | a | 表壞了 | 時計が壊れた |
| | b | 太郎弄壞了表 | 太郎が時計を壊した |

(b)の“弄壞”（壊す）は、(a)の自動詞“壞”（壊れる）に“弄”（する）の付加による他動化であり、意味的にも、自動詞“壞”（壊れる）という出来事を引き起こすのが、他動詞“弄壞”（壊れるようにする、即ち壊す）なのである。

また例えば、自動詞“下”（おりる）の他動化である“弄下”（おろす）は、「おりるようにする」意味で、“下”（おりる）ことを引き起こすことを表す。

使役化“讓乘客下車”と他動化“弄下”は、全く同一というわけにはいかないが、すくなくとも意味的には、自動詞の他動化と自動詞の使役化とは類似すると言えそうである。従って、日中両語共、対応する他動詞形がない自動詞は使役形が他動詞の役割を果たすことになる。

次の例を見られたい。

- | | | | |
|------|---|-------------|-----------------|
| (14) | a | 孩子們乘上了汽車 | 子供達がバスに乗った |
| | b | 老師讓孩子們乘上了汽車 | 先生が子供達をバスに乗せた |
| (15) | a | 孩子進了幼兒園 | 子供が幼稚園に入った |
| | b | 妈々讓孩子進了幼兒園 | お母さんが子供を幼稚園に入れた |
| (16) | a | 農作物受到了損失 | 農作物に被害が及んだ |
| | b | 台風使農作物受到了損失 | 台風が農作物に被害を及ぼした |
| (17) | a | 池水上凍了 | 池の水が凍った |
| | b | 寒波使池水結冰了 | 寒波が池の水を凍らした |
| (18) | a | 花子苦恼了 | 花子が悩んだ |
| | b | 双親的不和使花子苦恼了 | 両親の不和が花子を悩ました |

上例は、日本語では相対自・他動詞であるが、中国語では自動詞のみで、対応する他動詞がない。中国語は自動詞文が使役化することによって、日本語の他動詞文に対応する。使役動詞は、例えば(14(b))のように有生名詞主語の場合は、次のように“讓”でも“使”でも可能である。

- (19) a 老子讓孩子們乘上了汽車
b 老子使孩子們乘上了汽車

ところが、(16(b))、(17(b))、(18(b))の無生名詞主語の使役文は、次のように“讓”がマークされると、非文法的となる。

- (20)* 台風讓農作物受到了損失
(21)* 寒波讓池水結氷了
(22)* 双親的不和讓花子苦惱了

(16(b))、(17(b))における中国語の主語“台風”“寒波”等の無生名詞は、「農作物に被害が及ぶ」あるいは「池の水が凍る」という現象を起こさせる原因を表す。原因を表す無生名詞を主語とする使役文は使役動詞として“使”を使い、“讓”は許容されないと言える。

一方、この「使」使役文に対応する日本語訳は無生名詞主語の他動詞文より、次の

- (23) 台風で農作物に被害が及んだ
(24) 寒波で池の水が凍った

のように、原因を表す「デ」格をとる自動詞文のほうがより自然であるように感じられる。これは日本語の他動詞文の主語は有生名詞を原則とするからであろう。

同様に、(18(b))の中国語の主語“双親的不和”も「悩む」という感情を生じさ

せる原因を表す無生名詞である。目的語の“花子”は対象を表す有生名詞というより、「悩む」という感情を経験する経験者を表す有生名詞と言うべきものであろう。“双親的不和”は原因を表す無生名詞主語であるから、使役動詞には“使”が用いられ、“譲”は許容されないのである。

(18)(b)の中国語に対応する日本語も、原因を表す無生名詞を主語とする他動詞文より、次の

(25) 花子は両親の不和に悩んだ

のように、経験者を表す有生名詞「花子」を主語とする自動詞文のほうが無標である。

もう少し例文を挙げておく。

- | | | | |
|------|---|--------------|------------------|
| (26) | a | 孩子着急了 | 子供が焦れた |
| | b | 妈々让孩子着急了 | お母さんが子供を焦らした |
| (27) | a | 軍隊朝南方前進了 | 軍隊が南方へ進んだ |
| | b | 将军让军队朝南方前進了 | 将军が軍隊を南方へ進めた |
| (28) | a | 電車誤点了十分 | 電車が10分遅れた |
| | b | 司机使電車誤点了十分 | 運転手が電車を10分遅らした |
| (28) | a | 孩子習慣了新的環境 | 子供が新しい環境に慣れた |
| | b | 母亲使孩子習慣了新的環境 | 母親が子供を新しい環境に慣らした |
| (29) | a | 衣服溅上了泥 | 洋服に泥が撥ねた |
| | b | 車子使衣服溅上了泥 | 車が洋服に泥を撥ねかした |

3. おわりに

自動詞・他動詞に関わる問題は多い。今回は他動化と使役化との関連を日中比較対照した。しかし、自動化と受動化、さらにもっと押し進めて自動化と自発・可能との関連など、態に関わる問題とそれらについての日中両語の対

照研究がまだ残されている。これについては省略し、次回に回すことにする。

日本語の自・他対応が「開ける」「開く」のように自他異形であるのに対して、中国語は「開」のように自動詞にも他動詞にも対応する自他両用動詞が多いことから、その研究が未だ本格的になされていない。また中国人自身も自動詞と他動詞の区別を明確に把握していないようである。事実、中国語の辞書の項目には自・他動詞の機能が示されていない。日本語と中国語の対照研究は中国人に対する日本語教育、および日本人に対する中国語教育にとって不可欠であり、自・他の対応に限らず、その他の文法理論の対象研究が更に望まれる所以である。

文 献

- 井 上 和 子 (1976) 『変形文法と日本語』下 (大修館)
- 石堅・王建康 (1983) 「日中同形語における文法的ズレ」 (『日本語・中国語対応表現用例集V』日本語と中国語対照研究会編)
- 鵜 殿 倫 次 (1982) 「北京語動詞の自動・他動とアスペクト辞の働き」 (『愛知県立大学外国語学部紀要』15)
- 奥津 敬一郎 (1967) 「自動化・他動化および両極化—自他動詞の対応—」 (『国語学』70)
- “ (1980) 「動詞文型の比較」 (『日英語比較講座文法』大修館)
- 須 賀 一 好 (1980) 「併存する自動詞・他動詞の意味」 (『国文学』120)
- “ (1986) 「自動詞・他動詞」 (『国文学解釈と鑑賞』51. 1)
- 中 島 悦 子 (1991a) 「自・他の対応と日中対照研究—他動化—」 (『国士館短期大学紀要』17 国士館短期大学人文学会)
- 西 尾 虎 弥 (1978) 「自動詞と他動詞における意味用法の対応について」 (『国語と国文学』55-5 東京大学国語国文学会編)
- “ (1982) 「自動詞と他動詞 —対応するものとししないもの—」 (『日本語教育』47)
- 早津 恵美子 (1987) 「対応する他動詞のある自動詞の意味的・統語的特徴」 (『言語学研究』第7号 京都大学言語研究会)

- 早津 恵美子（1989）「有対他動詞と無対他動詞の違いについて」
（『言語研究』95 日本言語学会）
- 望月 八十吉（1982）「日本語から中国語を眺める－その2－」（『日本語と中国語の対照研究』第8号 日本語と中国語対照研究会編）
- 望月 圭子（1990）「日・中両語の結果を表す複合動詞」（『東京外国語大学論集40』）
- 楊 凱 栄（1989）「文法の対照研究－中国語と日本語－」（『講座日本語と日本語教育』第5巻 明治書院）
- 劉 月 貨 他（1988）『現代中国語文法総覧(上)』（相原茂訳 くろしお出版）
- 呂 叔 湘（1980）『現代漢語八百詞』商務院書館（菱沼透、牛島徳次訳『現代中国語用法字典』現代出版）